

日本精工株式会社 2023年3月期 第1四半期 IR決算説明会 質疑応答要旨

【Q1】

1Q実績は期初想定に対して事業別に具体的にどこが良く、もしくは悪かったのか。

【A1】

中国のゼロコロナの政策の影響を計画に織り込んでいましたが、産業機械事業では想定よりも影響が少なく、工作機械や半導体は高い需要水準を維持し、プラスの結果となりました。一方、自動車事業は、中国国内のみの影響を想定しましたが、中国国外、特に日本やアメリカで自動車生産台数に影響がでました。

【Q2】

通期の計画は据え置きだが、今後の懸念材料は何か。

【A2】

P6の記載の通り、リスクとしてはサプライチェーンの混乱の長期化によって、自動車生産台数の回復が更に遅れること、ヨーロッパもしくはアメリカの景気の減速が想定されます。また、想定以上のコスト上昇等がリスクとして挙げられますが、対策をとりながら運営をし、現時点では全体の業績には影響がほぼないと考え、計画を据え置きさせていただいています。

【Q3】

事業別、生産・販売を分けた中国事業でのロックダウン影響は。中国の自動車、産業機械、特に精機製品がどういう状況にあり、減速や受注の急落のような兆候はあるのか。

【A3】

上海近郊に生産拠点や倉庫があり、4月においては自動車事業も産業機械事業ともに生産、販売ともに大きく影響を受けました。5月中旬以降、上海地区のロックダウンが明け、生産、販売ともにほぼ回復しております。今のところ、精機、産機で受注の急落等の兆候はありません。

【Q4】

決算説明資料 P3 のインフレと売価転嫁、売価転嫁の内訳は。どこまで価格転嫁のキャッチアップができているのか、その背景は。鋼材以外のエネルギー、物流費は想定に対してコスト上昇、値上げはどのような状況か。

【A4】

売価ダウンはほぼなく、35億円の多くが価格に転嫁できています。昨年の4Qまでに高さで7-8割までカバーできており、前期まで価格転嫁してきた部分が反映されています。また、産業機械は期中に交渉させていただいた部分が反映されています。鋼材についてはコスト上昇の価格反映についての考え方がお客様ともある程度整理されており、価格転嫁ができています。輸送費、電力料金は過去にここまで一度に上がることがなかったので、引き続き交渉をさせていただいております。

【Q5】

利益増減での売価ダウンの影響は 1Q でほぼ影響がなかったということだが、2Q での影響はどの程度見込んでいるか。

【A5】

売価ダウンは通常の年よりは少ないと考えています。

【Q6】

1Q の産業機械事業の利益率が 10%を越え、外部環境が厳しい中で改善が進んできている背景、また、更なる利益改善は見えてきているか。

【A6】

為替の影響は産業機械事業が大きく、利益でも 20 億円以上為替の影響がありました。また、利益率の高いアフターマーケット向けを増やすことができたこと、昨年度に今後の物量増に備えて先行して人員配置していた部分での生産性が上がり、2 桁の利益率への回復ができました。またE&Eでは物量増と利益改善の余地があると考えております。

【Q7】

半導体製造装置や工作機械向けの需要動向に変化の兆しがあるのか、または、しばらく好調を維持できるのか。精機製品や精密軸受の需要環境や見通しは。また、産業別、地域別に見たときに、2Q 以降に気を付けておくべき点は。

【A7】

受注残があり、売上の好調は続きますが、受注の増え方がこれまで右肩上がりだったものに対して、高止まりしており、先行き少し落ち着くリスクも想定して運営してまいります。特に欧米において 7 月、8 月の夏休み後の推移で足元の景況は見えてくると思います。工作機械や半導体製造設備は、日本で生産して海外に輸出されているお客様が多いので、もし変調があれば、地域としては日本の売り上げに影響がでます。

【Q8】

EV 需要を狙い、東南アジアに 200 億円程度かけて小型モーター用のベアリングを製造する工場を新設される狙いと、4-6 月での小型モーター用ベアリングの状況は。

【A8】

小型モーター用のベアリングは、電動化の中で需要が増えていくのに対応して、産業機械向け需要も含めて生産能力をあげて高付加価値のものを生産するために工場が一つ必要ということで検討をしています。一方、足元は中国のロックダウンの影響や自動車生産の影響も受けるので需要が落ちており、需要の戻りと合わせ様々な施策を行い、産業機械の収益力を向上していきます。

【Q9】

E&E は1Q の売り上げの規模としてどれぐらいあり、損益的にどうか。

【A9】

1Q の E&E は 250 億円で半分は自動車向けなので今は厳しい状況にあり、少し物足りない結果でした。収益性は 1 桁で、産業機械全体が 10% 超えになっていますので、足元では足を引っ張っています。E&E のボリュームが回復するとそれに伴う十分な収益が期待できるということもあり、産業機械事業全体としての収益性を押し上げることとなります。

【Q10】

自動車事業でステアリング、ベアリングで追加的に収益改善策を講じなければならないという状況か。

【A10】

ステアリングの事業構造改革は決めたことを徹底してやり切ること、また、その柱の一つとしてコストダウンができる地域に生産移管する計画がありましたが、現在円安が進んでおり、更に進むことも想定して少しフレキシブルに修正しなければいけない局面もあるかもしれません。

自動車軸受については大柄な施策というよりも、現状の自動車生産台数の伸びを前提として、運営をしていきます。欧州はロシア・ウクライナの問題に端を発して欧州全体の景気の冷え込みが顕在化しつつあるため、先行きを見据えて策を講じなければいけないという認識でいます。

【Q11】

ステアリングの収益改善効果(通期 30 億円プラスの見込み、1Q は前年比プラス 5 億円の実績)について、進捗状況を教えてください。物量自体は逆風ですが、2Q 以降、修正が必要な部分があるか、どのように修正をされるのか。

【A11】

20 億円は償却費の減なので効果がでます。生産体制変更・移管は今期後半での計画で、円安の影響を考慮に入れ、計画を再精査する必要があると考えています。

【Q12】

ロシアのガス供給問題やエネルギーコストの上昇によりヨーロッパの経済状況が厳しくなる懸念があるが、ステアリング事業の合併の交渉が遅れる懸念はあるか。

【A12】

ヨーロッパのマーケット自体の冷え込みは、東京で感じている以上ですが、交渉に時間がかかるか、もっと早く進むのか、どちらの可能性もあり、どちらともいえない状況です。

【Q13】

ヨーロッパでのマクロ的な経済環境の変化が気になるが、直近の BKV の状況は。

【A13】

BKV のメインが風力発電向けですが、Q1 を見ると案件が後ろにずれたりして、昨年より少し勢いが落ちています。ただし、後ろにずれた案件は時間をかけて元に戻ってくると考えています。

【Q14】

在庫の圧縮について、6 月末の 2,000 億以上になった在庫を来年の 3 月に向けてどの程度の在庫水準にするのが適正と考えているか。また、3 月末のキャッシュフローの見込みは。

【A14】

最低でも 3 月末の水準、もしくはそれ以下と考えています。1Q の在庫が想定より増えているのは自動車事業で、自動車の生産台数の状況を注視していく必要があります。産業機械事業は売上も増えており、在庫が多少増えても在庫効率の面では問題はないと考えています。キャッシュフローについては利益と償却費で大体、おそらく年間 1,000 億円ぐらいになり、投資が 700 億円なのでフリーキャッシュフローの範囲内で配当などは賄えると考えています。

【Q15】

3 カ月前に比べて在庫の量や為替が大きく変わったため、未実現利益の消去等でどれくらい営業利益にインパクトが出たか。

【A15】

在庫や為替の影響、利益の推移などが影響し、結果として前年同期比較では全体としてほぼ影響はありませんでした。

以上